

びえい農業SDGsへの挑戦

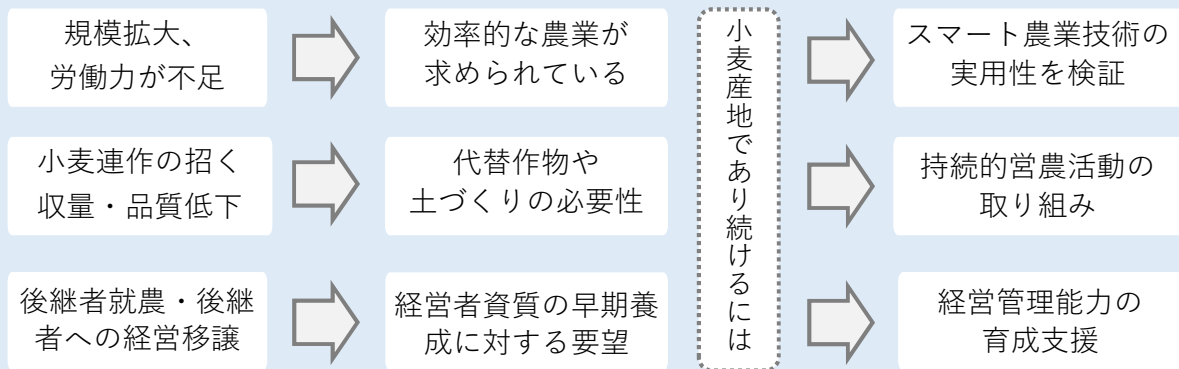
健全な小麦産地であり続けるための戦略

活動対象：美瑛町 赤羽地域10戸

美瑛町では、規模拡大による労働力不足や小麦の連作が問題となっており、持続的な営農活動のための対策が必要となっている。地区農業者10戸を対象に、衛星リモートセンシングを活用した小麦栽培の効率化、小麦代替作物に位置づけられる大豆の省力的栽培法の検討、経営分析ツールで可視化した経営の長短所の把握と若手農業者の経営者能力育成に取り組んだ。地区の実証結果を受けて衛星リモセンはJA生産部会の収穫順番判断目安に採用された。5戸は、経営個別課題に取り組み、省力的大豆栽培法や小麦間作栽培の定着につながった。若手農業者4名は、経営分析から経営の特徴を理解し、経営改善への実践的な取り組みを進めている。

1 課題の背景

◆赤羽地区：平均耕地面積41ha。水稻・畑作中心の複合経営



2 活動の経過

衛星リモートセンシングに基づく小麦窒素施肥



リモセン施肥実施を推進



地区研修会で意見交換

- ◆農業者の声からマニュアルを作成
- ◆タブレットを駆使して対面で操作説明
- ◆研修会で使用方法、改善点を意見交換
- ◆地域システム移行に向け事業者等と協議

低額で汎用的な衛星リモセンマップの実用性を検証(2年目)

持続的営農活動のための経営課題解決



試験内容の最終確認



は種量3水準の小麦試験

- ◆経営条件・要望から個別課題を設定
- ◆輪作改善、省力的大豆栽培法を試行
- ◆技術の効果、留意点を農業者と検証
- ◆部会研修会等で地域全体に結果を共有

持続的営農活動の提案・および結果の検証

経営解析ツールを用いた経営分析の実施



可視化した分析結果を確認



特徴的な費用を洗い出し

- ◆ツールに実績を入力し分析、結果を可視化
- ◆分析結果の確認、作物別の特徴を洗い出し
- ◆改善可能な費用と技術方策を検討

後継者・若手経営者の経営管理能力習得を支援

3 活動の成果

衛星リモートセンシングに基づく小麦窒素施肥

目標 7 戸/実績 3 戸(43%達成)



◎新たに 1 戸は衛星リモセンで施肥を実施

▲曇雨天で適期にリモセンは配信されなかった

| 利用方法、良い点 | 2 年試用してみて |
|--------------------|------------------------|
| ◎マップの赤い部分は肥料を多めにした | □マップの色と自分の感覚が近いことがわかった |
| ◎収穫適期早晩と概ね一致 | □小麦以外の作物も見なかった |
| ▲曇雨天続き、見れなかった | |

天候に左右されるが、施肥・収穫判断ツールとして有用

得られた成果を美瑛町全体で共有
収穫判断システムとして採用

持続的営農活動のための経営課題解決

目標 6 戸/実績 5 戸(83%達成)

| 取り組み数 | ねらい | 具体的課題(一部抜粋) |
|---------------|---------------|-------------------------------------|
| 5 戸 (11課題) | 大豆省力栽培・小麦連作軽減 | 大豆狭畦栽培・間作小麦栽培 大豆緩効性肥料 大豆の新規導入 |
| | 栽培法の見直し | ばれいしょ施肥低減 きたほなみは種減量 ブロッコリー液肥 |
| | 土壌物理性改善 | カットレソ、モミサロー |

- ◆ 5 戸が課題解決に取り組んだ(延べ11課題)
- ◆ 大豆狭畦栽培、間作小麦栽培は 2 戸に定着
- ◆ 令和 5 年度、新たに 1 戸が大豆栽培を開始
- ◆ 地区小麦連作率は 4 %減少



大型コンバインをフル稼働

取り組みをきっかけに大型コンバインの地区内作業受委託が成立



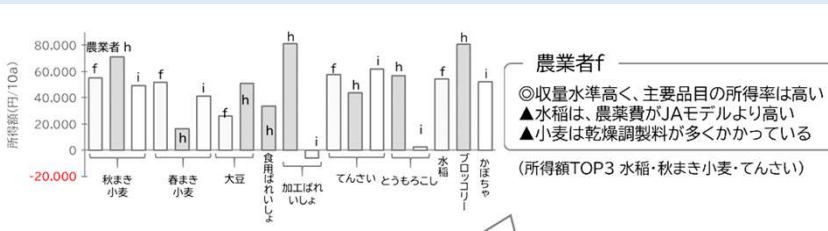
施肥低減肥料で収益性向上

省力的大豆栽培、小麦連作緩和で
小麦品質安定化・持続的
営農活動を後押し

ばれいしょ低減肥料で所得増加効果を実証

経営解析ツールを用いた経営分析の実施

目標 4 戸/実績 4 戸(100%達成)



経営間、年次間の比較から、経営の強み、弱みを把握

- ◆ 1 名増えて 4 名が分析を実施
- ◆ 実績を経営間、年次間で比較
- ◆ 改善費用項目選定、栽培法見直しへ

経営実績の実践的な検討から
若手農業者の資質養成

4 今後の課題

衛星リモートセンシングに基づく小麦窒素施肥

- ・ 関係機関と連携し地域全域の有効利用を推進。道総研試験成績などの情報提供

持続的営農活動のための経営課題解決

- ・ 経営条件、農業者の意向を踏まえた輪作体系改善、経営改善の取り組み実施を支援
- ・ 周辺酪農場との耕畜連携、堆肥の有効利用に向けた関係者の意向聴取、意見交換を実施

経営解析ツールを用いた経営分析の実施

- ・ 分析結果から対象作物や費用を選定。具体的な栽培技術の見直しを支援